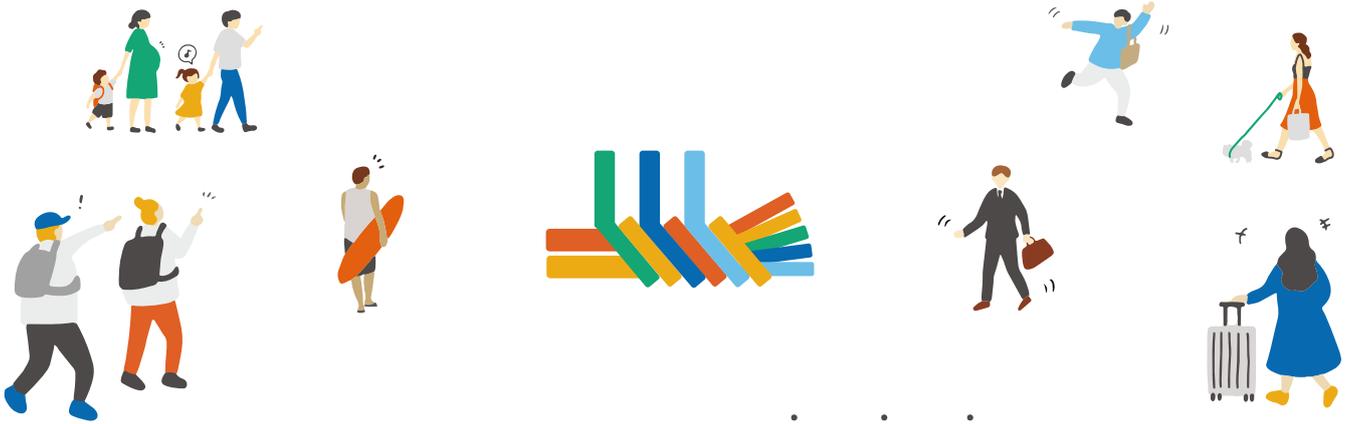


藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト



「まちや人をつむぐ。」

はじめに

藤沢市は、にぎわいと魅力あふれる駅前まちづくりを目指して、段階的な公共施設の整備や民間施設の建て替え等の促進を進めています。

にぎわいと魅力あふれる駅前まちづくりには、まちの歴史や文化を踏まえながら、風格や趣が感じられる街なみとなるように、まち全体で統一したデザインの方向性や空間の使い方を行政だけではなく、市民や事業者の方々と一緒に考えていくことが必要です。

まちのデザインを考えるためのツールとして、藤沢駅前街区エリアデザイン会議の意見を基に、「藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト」を作成しました。

デザインコンセプトは、公共施設を整備するときのデザインの指針とするとともに、民間施設の建て替えのときなどには、市民、事業者の方々が魅力的な駅前について考えるきっかけとなるよう活用できればと考えています。

Topic 1 藤沢駅前街区エリアデザイン会議

デザインコンセプト並びに南北自由通路のデザインについて検討を進めるため、「藤沢駅前街区エリアデザイン会議」を2022年度、2023年度に計7回開催し、藤沢駅前らしさの整理や空間の設えと人の活動の両面から議論いただきました。

エリアデザイン会議は、学識経験者、エリアマネジメント団体、鉄道事業者及び藤沢市の職員で構成しており、学識経験者として次の3名の方に参画いただきました。

議長 石川 初 慶應義塾大学教授
副議長 伊藤 香織 東京理科大学教授
加藤 幸枝 (有)クリマ代表取締役・色彩計画家

1 デザイン要素ってなに？

デザインコンセプトを広く利用してもらうために、デザインコンセプトをより具体化した「デザイン要素」を作成しました。藤沢駅前前の施設整備に必要なデザイン要素を「基本的な要素」、藤沢駅前らしい特徴をまとめたデザイン要素を「個性的な要素」としています。

個性的な要素は、各施設がそれぞれの特徴に合ったデザイン要素を選び、自由に組み合わせて使用してもらうことを想定しています。各施設が特徴を活かしながらも、デザイン要素を通じて、まちの統一感といった藤沢駅前らしさの創出につながることを期待しています。

I 基本的な要素



「安心・安全」なデザイン

子ども、高齢者、外国人等、誰もが安心して過ごすことができる、安全に配慮したまちのデザインとします。



「わかりやすい」デザイン

訪れた人が目的に応じて、スムーズに誘導されるよう、わかりやすく機能的なまちのデザインとします。

II 個性的な要素



「交流・にぎやか」なデザイン

たくさんの人やモノと出会い、多様性のある、ミックスカルチャーで、にぎやかなまちの下地となるデザインとします。



「自然・明るい」デザイン

空、太陽、海、緑といった藤沢の豊かな自然を感じられるような、明るく、自然あふれるまちのデザインとします。



「ぬくもり・優しい」デザイン

誰もが自分に合った居場所を見つけられるような、多様でぬくもりや優しさを感じるまちのデザインとします。

Topic2 対象区域

デザインコンセプトでは、藤沢駅前街区を対象区域として設定しています。藤沢駅前街区とは、藤沢駅周辺のにぎわいづくりに重要な役割を持つ街区（藤沢駅施設や南北駅前広場を含む街区）及び南北デッキに接する地域のうち、容積率が600%以上である区域のことをいいます。



(対象区域:青色で着色した区域)

2 デザイン要素はどう生まれたの？

藤沢駅前に馴染むデザインコンセプトとするため、施策や市民意見等から「藤沢駅前らしさ」に関するキーワードを抽出し、そのキーワードを分類・整理することで、藤沢駅前らしさを5つの「デザイン要素」として、言語化しました。

I 藤沢駅前らしいキーワードの抽出

藤沢駅前らしいデザインとするため、市施策等におけるまちの位置付けや市民意見等からのまちなイメージから藤沢駅前に関連する「キーワード※」を抽出しました。

※第3回藤沢駅前街区エリアデザイン会議資料にて整理。

(市施策等における位置付けの例) 湘南ブランドを生かした活力増進と情報発信/湘南の玄関口 等
(市民意見等からのイメージの例) 太陽、海、空といった自然に近いイメージ/ほっとするような空気感/人が多くて活気がある/湘南らしいかっこよさ/レトロ感のある商店街/お年寄りに優しい 等



©わがまちふじさわ景観ベストテン 他

II 5つのデザイン要素として整理

デザインは、その空間としてのデザインだけではなく、人の活動が及ぼす影響もデザインに関係すると考え、藤沢駅前らしさにまつわるキーワードを「空間の設え」と「人の活動」に分類し、そこからみられるまちの特徴を5つの「デザイン要素」として整理しました。



III 基本的な要素と個性的な要素として整理

多くの人々が利用する藤沢駅前の施設において、安全性や視認性等は満たすべき必須の要件であると考え、「安心・安全」と「わかりやすい」は、デザインの「基本的な要素」としました。

一方で、多様な用途や文化が重層するまちの個性を生かせるように、都心としての「交流・にぎやか」、湘南を感じられる「自然・明るい」、人の交流やどこか懐かしさもある「ぬくもり・優しい」は、施設の個性に合わせて柔軟に選択し、組み合わせられるデザインの「個性的な要素」としました。

3

デザイン要素の具体的なイメージ

デザイン要素が実現する空間はどんな空間なのか。それぞれのデザイン要素の具体的なイメージについて、様々なまちのデザインを参考に解説します。

「安心・安全」なデザイン事例

元町駅前まちなか拠点（兵庫県神戸市）

駅前の限られたスペースにおいて、待ち合わせや休憩ができるような空間を設えることで、多様な世代の方が快適で安全に過ごせるようなデザインとなっています。



かみす防災アリーナ（茨城県神栖市）

見通しが良く分かりやすい避難施設となるような空間構成とすることで、安全に配慮した防災拠点でありながら、普段はみんなの居場所となっています。



©2019 グッドデザイン賞：清水建設・梓設計設計共同企業体

「わかりやすい」デザイン事例

渋谷サイン（東京都渋谷区）

組織の壁を越えた体制によって、駅とまちで共通のサインが設置され、エリア全体としての一体感を持つことで、駅やまちがわかりやすく、アクセントとして愛着が持てるサインとなっています。



市営地下鉄 七隈線櫛田神社前駅（福岡県福岡市）

線路全体としてのデザインポリシーに基づいた照明計画によってデザインが統一されており、出入口や誘導ブロックなどを利用者にわかりやすく誘導する工夫がされています。



Topic3 コンセプト「まちや人をつむぐ。」に込めた想い

藤沢駅前街区は、多くの人が行き交う湘南の玄関口の役割を担い、にぎやかな都心の顔とぬくもりのある郷土感が調和したまちです。そこに集まる人と多様な機能、活動が混ざり合うことでつむぎだされる魅力的なミックスカルチャーと駅前のにぎわいや個性が、将来にわたって、つむがれていくことの想いを込めています。

「交流・にぎやか」なデザイン事例

Kosugi 3rd Avenue（神奈川県川崎市）

飲食店のテラス、イベントスペースや憩いの空間といった多様な機能を近接させることで、にぎわいの相乗効果が生み出されています。



太田市美術館・図書館（群馬県太田市）

駅前施設に多機能を連結させ、幅広い世代の方の居場所をつくることで、その活気が周囲の商店街にも広がり、新しいにぎわいが生まれています。



「自然・明るい」デザイン事例

横浜北幸ビル（神奈川県横浜市）

街路樹から連続する緑を建物施設に取り込み、全体的に明るく表情豊かな自然が感じられるデザインとなっています。



©Munehide Ida

東遊園地（兵庫県神戸市）

樹木に囲まれつつも、開放感のある自然の景色を感じられる空間構成となっており、再生木材を利用したファニチャーや多様な居場所が設けられています。



「ぬくもり・優しい」デザイン事例

Slit Park YURAKUCHO（東京都千代田区）

都市の隙間に様々な属性の人が落ち着ける居場所を生み出すことで、異なる機能や活動が共存した街路空間となっています。



©東邦レオ株式会社

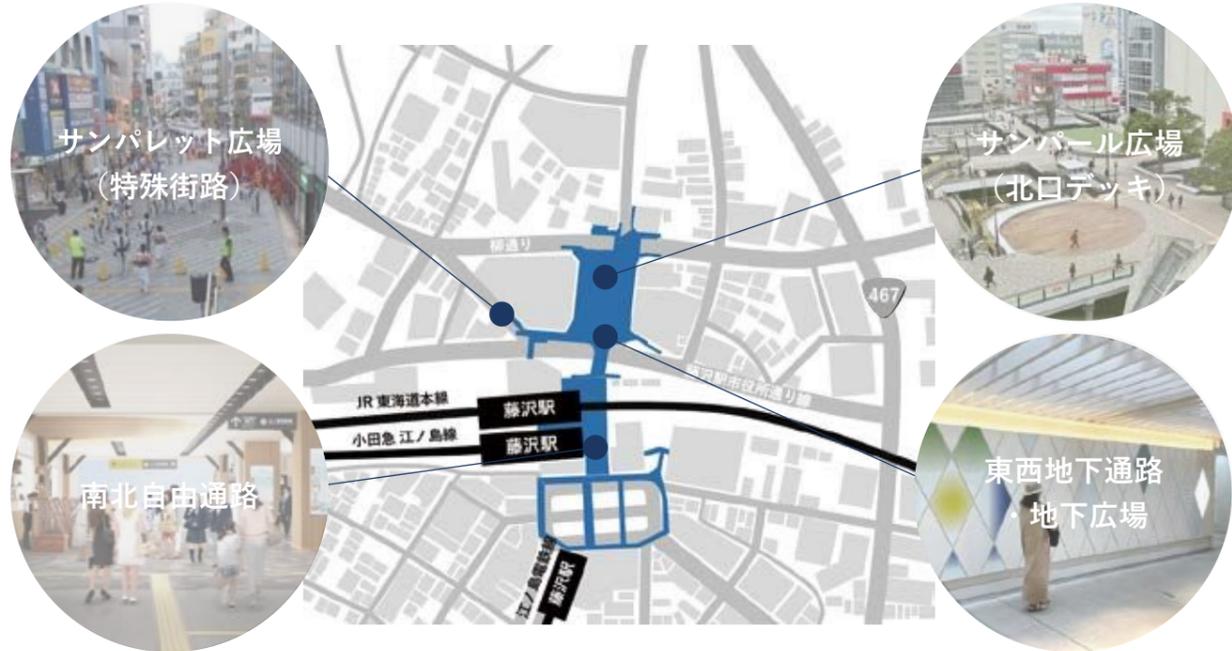
OMO7大阪（大阪府大阪市）

ホテルとまちの境界を曖昧にすることで、公共空間と民地とが視覚的・空間的に優しく連続するよう配慮されたデザインとなっています。



4 公共施設におけるデザイン要素の使い方

藤沢駅前街区の公共施設整備は、段階的に進めてきましたが、「デザイン要素」という考え方で街なみの統一感を図っています。各公共施設の整備の際は整備方針というものも掲げています。各施設の特徴でもある整備方針と共にデザイン要素の使い方を紹介します。



デザイン要素： 安心・安全 わかりやすい 交流・にぎやか 自然・明るい ぬくもり・優しい



南北自由通路
 整備方針「通路として安全性やわかりやすさを備えるとともに、駅前空間としてまちとのつながりを意識した駅周辺への回遊を促すデザインにすることで、多様な人や文化との出会いや交流、にぎわいが街区全体に広がるような『駅・人・まちをつむぐ』自由通路」

- 交錯していた従前の動線を解消し、十分な幅員をとることによって通路の安全性を確保
- 街区でサインを統一することで、利用者が容易に目的方向へ移動できるよう視認性に配慮
- 駅からの回遊性やまちとの連続性を意識し、北口・南口駅前広場と舗装を連動
- 天井や壁面の色調について赤みを押さえた配色とすることで、自然光による明るさを強調
- 都市の中にあってもぬくもりが感じられるよう天然木を柱やにぎわい空間等に使用することで、心地良い居場所を確保



©藤沢駅周辺地区エリアマネジメント

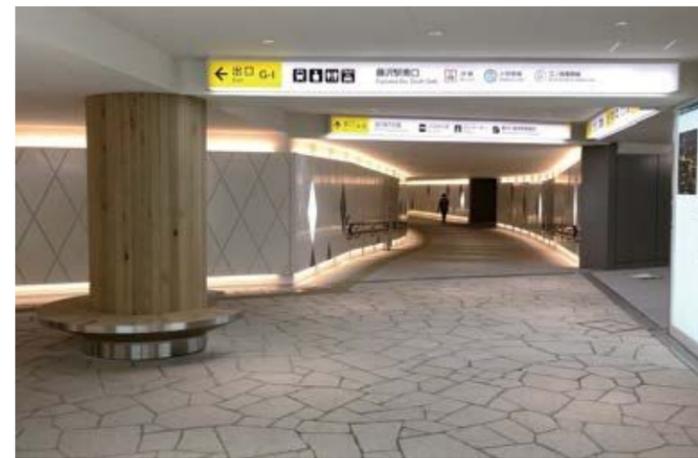
サンパレット広場 (特殊街路)
 整備方針「湘南・藤沢 Garden Gate『都市の路地・ガーデン』」

- フラットな舗装、エスカレーターの設置等によって歩行者の安全性、利便性を向上
- 人々が容易に移動できるよう、またイベント利用にも配慮し、十分な空間と見通しを確保
- エリアマネジメントによるイベントなどが実施できるような設え



サンパール広場 (北口デッキ)
 整備方針「湘南・藤沢 Garden Gate『暮らしを楽しむひろば・ガーデン』」

- 階段段鼻、誘導ブロック周りの床材の配色を変えることで、安全性と全体的な調和に配慮
- 藤沢の豊かな自然である空・太陽・緑を取り込んだ明るく開放感が感じられる空間へ
- 芝生広場やベンチ等を配置することで、様々な世代の方が利用できる居場所を確保



東西地下通路・地下広場
 整備方針「人々が集い、にぎわいが創出され、安心して快適な空間づくりとして、『つなぐ・むすぶ・ささえる』」

- 天井や壁面、サイン、照明等を白を基調とすることで、明るくて、安心・安全な空間へ
- 壁面には「水面の象形」をテーマにした柄を表現し、藤沢の風景イメージを展開
- 広場にはサイネージ・インタラクティブ機能を設え、にぎわいを創出する仕掛けを設置

藤沢駅前街区のサイン計画

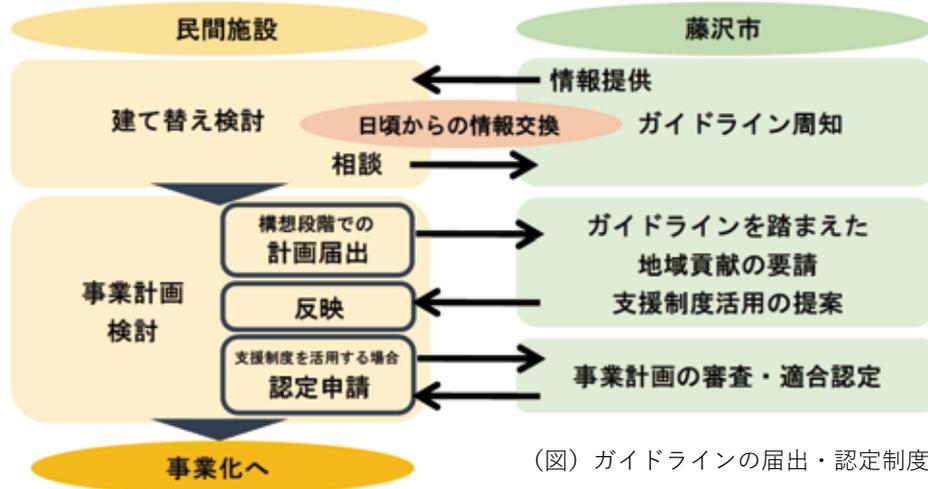
藤沢駅前街区において、北口駅前広場、東西地下通路、南北自由通路、南口駅前広場、及び駅舎 (JR、小田急、江ノ電) のサインの考え方を統一することで、駅とまちとの一体感を創出することを目指します。



5

デザインコンセプトの運用

2023年3月に藤沢市の駅前まちづくりの考え方をまとめた「藤沢駅前街区まちづくりガイドライン」を策定しました。ガイドラインでは民間施設に期待する地域貢献の項目として、「地域資源との関係性に考慮した意匠面の工夫」を掲げており、デザインコンセプトが街区全体の統一感にも考慮した意匠面の工夫を検討するときのツールとなることを期待しています。市民や事業者の方々と意思の共有を図りながら、安心・安全でにぎわいのある駅前空間の実現を進められるよう、ガイドラインとともにデザインコンセプトを運用していきます。



(図) ガイドラインの届出・認定制度

6

デザインコンセプトが伝えたいこと



石川 初
慶應義塾大学教授
藤沢駅前街区エリア
デザイン会議議長

藤沢駅前街区のエリアデザインコンセプトのため、エリアデザイン会議という場が用意され、2022年6月から2年間にわたって委員の皆さんにしっかりとした議論を重ねて頂きました。その結果、このようなコンセプトにまとめることができました。地域のデザインはややもすると地域性を象徴する色や記号が掲げられたりしますが、このコンセプトはそうではなく、デザインの対象を基本的な要素と個性的な要素という整理をし、その組み合わせでデザインするという「方法」を掲げているところに特徴があります。これは画期的なコンセプトで、今後整備されていく公共施設や民間施設にも利用できるものですし、他の地域や自治体でも応用できるような事例を作ることができたと思います。

エリアデザイン会議では、コンセプトの検討とともに南北自由通路のデザインの検討も並行して進められました。コンセプトを作るそばからそれを応用していくという進め方でした。南北自由通路のデザインは、運用が始まってからその表情が豊かになるようなデザインとなり、良い形でエリアマネジメントにバトンを託せたと思います。

このコンセプトが多くの方の目に触れて、駅前街区をはじめとするまちづくりに役立ててくださると嬉しいです。

